



コミ・プラ
マスコットキャラクター
「ホッポウ君」



公民館
Instagram
アカウント

ふじみ町 公民館報

〒399-0211
長野県諏訪郡富士見町富士見 3597-1
コミュニティ・プラザ内 富士見町公民館
Eメール: kouminkan@town.fujimi.lg.jp

No.740

令和7年5月1日

発行 富士見町公民館
編集 公民館報編集委員会
TEL 0266(62)7900
FAX 0266(62)7611

鹿と私たちの暮らし



高原晴雨

した。

ChatGPTのサイトを訪れたユーザーは、2023年4月には世界で2.1億人と急増している。国別では米国が1位で、日本は3位となっているが、人口当たりの利用者数は日本が世界一である。ChatGPTの技術幹部は「日本はChatGPTの使い方がユニークで面白い。また他国と違ってAIを恐れていない。AIと一緒に生きる世界がどのようなものかを幼少期から何となく理解している」と述べている。

ChatGPTに富士見町の魅力を聞いた。答えは以下の通りである。

「長野県諏訪郡富士見町は、自然に恵まれた美しい高原の町で、観光・レジャー・食文化など多くの魅力があります！」との導入に続いて、以下の項目について概説が述べられている。1. 絶景と自然（富士見パノラマリゾート、入笠湿原、井戸尻遺跡公園）2. レジャー&アクティビティ（登山・トレッキング、サイクリング・マウンテンバイク、キャンプ&グランピング、温泉）3. 食文化・特産品（富士見高原野菜、信州そば、八ヶ岳チーズ&乳製品、地ビール・ワイン）4. 文化・歴史（井戸尻考古館、富士見町の伝統行事）5. アクセスの良さ（東京から約2時間！）

富士見町の魅力を過不足なく適切に紹介されているだろうか。私は「富士見高原リゾート」「縄文文化が花開いた地域」等も大きな魅力ではないかと思う。

創造性や生産性の向上に寄与するChatGPTは「インターネット上の情報を学習データとして使用するので、元のデータに誤りがあればそれが回答に反映される」「学習データに偏見や問題のある表現が含まれている場合がある」「意図せずに他者の著作権をそのまま利用した内容を生成する可能性がある」等がネット上で指摘されている。

注意深く利用したいと思っている。

赤坂 行男

鹿と私たちの暮らし

富士見町での生活で避けては通れないことのひとつに、野生動物との関わりがあります。八ヶ岳を取り囲む佐久から諏訪の地域には、古くから鹿が多く生息し、地域の信仰とも関わりが深い存在です。しかし今日、ニホンジカは有害鳥獣に指定されていて、駆除される存在でもあります。今回はこの鹿との関わりについて、「害獣」と「信仰」の二つの異なる側面から追ってみました。

ニホンジカの生態について

ニホンジカは日本に生息する在来大型獣の一つで、分布域が広いため種内変異が大きく、数種類の亜種があります。長野県に生息するのはホンシユウジカ（本州鹿）と呼ばれています。縄張りを持たず、食物環境がよい牧草地などの箇所では、極めて高密度の大集団を形成し、生息環境にあわせて、数キロメートルから数十キロメートルにかけて季節移動を行うことがあります。また多くの場合二歳から子供を産み、栄養条件が悪くない限りほぼ毎年産み続けるため繁殖力はかなり高いと

されています。

近年の個体数増加と生息域拡大は気候変動や、天敵であったニホンオオカミの絶滅、森林の荒廃（下草の増加）が影響していると言われており、環境省の調査によれば、一九七八年から二〇一八年の四十年間で生息域は約2.7倍に拡大しています。かつては標高の低い地域に限られていましたが、近年は標高二千五百メートル級の高山地帯にも進出していて、気候変動による暖冬や積雪量の減少が影響していると考えられています。



畏にかかっている鹿（2024年12月町内撮影）

「害獣」としてのニホンジカの影響

①長野県内の被害について

令和五年度、長野県全体での野生鳥獣の農林業被害額は年間八億円近くに

及んでいます。中でもニホンジカによる農林業被害額が最も大きく、全体の33・1%を占めています。経済的な損失だけでなく、農林業の生産意欲への影響など、農山村地域の深刻な問題となっています。また、ニホンジカの食害等による自然植物への影響も懸念されています。諏訪六市町村の中でもやはり圧倒的に農林被害額が多い有害鳥獣はニホンジカで、令和五年度の被害総額は、農業・林業合わせて四千二百万円近い額となっています。

②富士見町内の被害について

富士見町内だけを見ても、令和五年度のニホンジカによる農林業の被害額は四百万円以上で、主に水稲、雑穀、飼料作物、野菜などを育てている農業に被害が起こっています。次に被害額が大きいニホンザルは三十七万円となっており、その差は歴然です。ニホンジカによる被害額については、防護柵や猟による個体数調整によって減少している一方、水田などへの被害は継続して発生しているようです。特に五月から十月にかけての農作物の生育期と収穫期に、被害の発生が多く見られています。

町が行った農作物被害額調査の結果でも、平成十八年度をピークに被害額は減少傾向となっています。しかし、この減少の要因については、広域の防護柵などの被害対策を実施してきた成果が表れたことに加え、鳥獣被害の長

期化により農家が耕作をあきらめ、被害額調査の対象外となったことも同時に挙げられています。なお、農林業の被害以外でも、家庭菜園への食害や住居集合地域での出没、空家等への生息による生活環境問題も確認されています。

令和5年度 諏訪地域の市町村別農林業被害額（詳細）—富士見町抜粋

長野県諏訪地域振興局 集計

ニホンジカ		イノシシ		ニホンザル		ハクビシン		タヌキ、ネズミ		獣類計	
農業	林業	農業	林業	農業	林業	農業	林業	農業	林業	農業	林業
4,101	0	1	0	379	0	28	0	6	0	4,515	0

（金額単位：千円）

*カモシカ、ツキノワグマの被害額は無し

個体数調整によるニホンジカの捕獲頭数の推移—富士見町抜粋
長野県諏訪地域振興局 集計

H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	RI	R 2	R 3	R4	R5
723	804	790	752	739	633	624	710	679	809	644	703

※上表の捕獲頭数には国有林職員による捕獲頭数を含む。(単位：頭)

ちかとうじんしゃ
千鹿頭神社

古くからの信仰について

一方諏訪地域では、古来から鹿は神の使者ともいわれていました。元々諏訪の国津神であったとされる千鹿頭神は鹿を神の使いとしていたために、神を祀る社は原野や山林に囲まれている場所におかれているという話もありま



休戸区の千鹿頭神社 (2021年撮影)

す。千鹿頭神を祀る神社はごく限られた場所にあり、茅野市では米沢塩原田と、ちの上原の二社、諏訪市では有賀の一社、そして富士見町には現在、休戸と横吹新田の二か所にあります。横吹の社は、横吹、とちの木、木之間が共同で祀っていて、休戸の社については、平成五年に南諏衛生センター増設にあたり、河原休戸の社を花場の氏神社と程久保川を境にした隣接地の千鹿頭神社に合祀され、現在一社にまとめられています。

祭祀では鹿肉を神に供えることから、千鹿頭神社が狩猟の神であったことを意味していると言われています。四つ足の動物を食べると穢れるとされつつも、諏訪大社の鹿食免(かじきめん)の箸で食べれば穢れないといわれています。

御射山祭



御射山社祭 (1991年撮影)

町の指定史跡である神戸の御射山社では、毎年八月に御射山社祭が行われています。このお祭りは「はらやまさま」とも呼ばれ、数えて二歳になる子どもの健康を祈るお祭りとなっていますが、中世の時代から今日まで続いており、古来より伝わる諏訪大社(上社)の重要な狩猟神事のひとつとされています。境内の案内板にも「(前略)、穂屋(ススキで囲った仮屋)を造営して大祝・神長官をはじめ、多数の神官や武士などが参籠し、狩りを行って獲物を神に供え、豊作を祈願し、また流鏝馬などの武技競べも行われたと伝えられる。」とあります。

このように、そもそも狩猟の歴史自体がとて古く、同時に自然の恵みとして鹿の存在を崇める歴史も深かったことを伺うことが出来ます。

あとがき

富士見町に移住して四年目になり、野生動物との付き合いについて考えさせられることが増え、今回記事を書きました。ジビエを食べる機会も多く、子どもへの食育について考えることもしばしばです。祀られる存在である鹿を今では懸命に駆逐しているという、相反する状況があるようにも思えますが、人が自然を畏れつつも崇め続ける長い歴史が垣間見えました。動物も人間も、お互いに必死に生きながら、実はずっと一緒に生きているようにも感じられました。

「取材協力」

富士見町産業課 今井健太さん
長野県諏訪地域振興局 林務課

「参考資料」

- 富士見町鳥獣被害防止計画(令和六年度変更) 富士見町産業課 農林保全係
- 野生鳥獣被害対策本部(長野県庁) 令和6年度第4回本部会議(令和6年9月9日) 資料1—令和5年度野生鳥獣による農林業被害等の状況について
- 『令和6年版 猟友なごの』(一般社団法人長野県猟友会)
- 『野生動物管理システムハンドブックニホンザル・ニホンジカの総合的な被害対策のすすめ方』(平成24年3月発行)
- 『ニホンジカの生態と農林業被害対策 鳥獣害の発生生態と防除対策(3)』国立研究開発法人森林総合研究所野生動物研究領域 堀野真一
- 『日本原初考 諏訪信仰の発生と展開』(人間社文庫 日本古層)
- 『富士見町史(下巻) 研究紀要第二号』(富士見町)
- 『富士見町の指定文化財』(富士見町教育委員会)

おすすめ Book

★電話・WEB またはカウンターでご予約ください

小説 『おぼろ迷宮』 月村 了衛 著

おんぼろアパート『朧荘』に住む女子大生夏芽は、バイト先の和菓子屋で不可解な出来事に遭遇する。その『謎』を解決するのは、隣に住む正体不明の老人、鳴滝。尋常ならざる人脈と驚異の推理力を駆使する彼は一体何者なのか。街にはびこる不可思議な事件を、凸凹コンビがスイーツを食べつつ華麗に解決する。

5月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

- 図書館・博物館…休館日
- 図書館のみ…休館日（博物館は開館日）
- 20冊貸出

5月20日(火)～23日(金)は蔵書点検のため、図書館は休館となります。



富士見町図書館HP

イベント情報

● 5月5日(月・祝日) 子どもの日上映会

時 間：①午前10時～11時30分
劇場版 ダーウィンが来た！
「日本列島生きもの超伝説」
②午後1時30分～2時30分
おしりたんてい
「プッ おりのなかのけいかく」
会 場：コミュニティ・プラザ 2階 AVホール
定 員：60名
(小学生未満のおひさまは保護者同伴)
入 場：無料 / 申込：不要

● 6月1日(日) 科学のとびら

「円盤型万華鏡をつくろう」



時 間：午前10時～11時45分
会 場：コミュニティ・プラザ 2階 大会議室
定 員：親子 15組 (必ず保護者と参加してください)
参加費：無料
※お電話、図書館カウンターまたは二次元コードより事前にお申し込みください。
(5月1日受付開始)

申込 問 富士見町図書館 ☎62-7930

博物館

(富士見町高原のミュージアム) ☎75-5735

企画展

町制施行 70 周年記念企画 「昭和の写真展」

期 間：令和 7 年 4 月 11 日(金)～5 月 25 日(日) ※会期中は入館無料です。

本展では、昭和の時代に町内で撮影された人々の生活の懐かしい様子や、当時の風景と現在の風景を同じ場所で撮影した写真を展示します。



- 場 所 富士見町高原のミュージアム (コミュニティ・プラザ 2階)
- 開館時間 午前 10 時～午後 5 時 (入館午後 4 時 30 分まで)
- 入 館 料 会期中は入館無料です
- 休 館 日 月曜日 (月曜が祝日の場合は翌日)

イベント のご案内

「民話の朗読と展示解説」

- 日時 5月17日(土) 午前11時～正午
- 会場 富士見町高原のミュージアム
- 申込 不要